

# 連携医院のご紹介

専門性の垣根を越えて、的確な診断から治療まで行う「ワンストップ総合診療」を目指しておられる「セントラルクリニック」の藤川光一院長にお話を伺いました。



藤川院長

## セントラルクリニック

〒731-5125  
広島市佐伯区五日市駅前  
3丁目5-16  
電話/082-923-1117  
院長/藤川 光一  
専門/内科、呼吸器科、胃腸科、  
循環器科、放射線科



### ○いつ開業されましたか。

平成7年に当地に開業しました。

### ○開業されてから今までのことを教えてください。

初代院長は中村進で、私は令和2年9月に院長に就任しました。放射線専門医2名、消化器専門医1名、呼吸器専門医1名が在籍するクリニックとして全身の様々な疾患を診断し、個々の患者様に最適な治療を提案しております。

開業当初からCTを導入し、画像診断を中心に診療を行っており、今では140軒あまりの医療機関様から多くの検査紹介をいただいております。

### ○力を入れている事などを教えてください

画像診断を武器に全科的ワンストップ診療を目指しています。ありふれた症状に隠された重大な疾患を拾い上げることで、早期に最適な治療に結びつけることができると考えています。

幅広い領域の異常を発見するように心がけることで、思いがけない病変が見つかることも多く、がんの診断を例にあげると、当院で年間に診断される300件を超えるがんのうち、3分の1以上が、当初検査目的とした臓器以外から見つかっています。

### ○毎日の診療で大切にされている事や、やりがいは？

当院は「的確な診断を目指します」、「納得できる説明をこころがけます」、「適切な治療を提案します」をモットーに診療にあたっています。

可能な限り曖昧な返事や説明はしないように心がけ、患者様の訴えや疑問に対して真摯に伝える努力をしています。

### ○県病院はどんなところですか。県病院に一言。

多くの患者様（特に癌の患者様）を紹介し、治療していただいている頼りになる病院です。



外観

### 【取材後記】

院長先生が丁寧に取材に応じて下さいました。様々な症状から不安を持つ患者様も多く、診断・治療へと導いてくれる心強いクリニックだと感じました。

# もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818 (代)  
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

教えて

Dr. 56

ダヴィンチ手術  
始めました！

専門診療医による得意治療を紹介いたします。

## 患者さんと外科医に 優しいロボット手術

呼吸器外科



呼吸器外科部長  
片山 達也



「もみじ154号」で泌尿器科の梶原先生がお伝えしたように、県立広島病院に最新型の手術支援ロボット(da Vinci Xi)が導入されました。繰り返しになりますが、ドラえもんのようなロボットを使って全自動で手術を行うわけではありません。上の写真の右側に見えるゲームセンターにあるような台(コンソール)に術者が座ってカメラ映像を見ながらダヴィンチのカメラと3本のアームを操作することで手術を行います。従来の胸腔鏡下手術(VATS)と異なる点(メリット)は、胸壁(肋間)への負担や体全体へのダメージが少なく、その結果早期退院が可能となる事が報告されています。また、外科医にとってみても高精度の拡大+立体視映像(10~14倍拡大、4K+3D画像)で細かい血管や神経、組織まではっきり見えることと、複数の関節があり人間の手を上回る動きができる器具(鉗子)を自由に動かすことにより、手ブレもない正確な手術ができます。SF冒険映画「ミクロの決死圏」の様にあたかも小さいマシンに乗り込み胸の中に入って、アームを操縦して間近で手術を行なっているかのような感覚で、精密で高品質な手術が可能となります。呼吸器領域においても、2018年4月からこのロボット支援による肺がん手術および縦隔腫瘍(じゅうかくしゅよう)手術がともに保険診療でできるようになっています。手術の費用は通常の胸腔鏡下手術と同程度です。

ダヴィンチによるロボット手術には、厳格な資格制度がありIntuitive surgical社規定のトレーニングを受け資格を取得した医師のみが行うことができます。当科全員が術者、または助手の有資格者であり、麻酔科医、看護師、臨床工学技士を含めた医療スタッフの多くがダヴィンチに習熟しており、定期的に緊急時の対応訓練もチームで行っています。

次ページは医療従事者向けですー

## 県立広島病院からのお知らせ

### 8月のがんサロン

**開催日** 令和4年 8月 24日(水)  
**時間** 14:00~15:00  
**場所** 新東棟2階研修室及びオンラインZOOM参加  
**テーマ** 乳がん最近の話題  
**講師** 乳腺外科部長 尾崎 慎治 医師  
**対象** 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族  
当院での受診歴は問いません

**問合せ** がん相談支援センター  
☎082-256-3561 (定)



※事前申し込みが必要です。  
※感染状況によりオンラインのみに変更場合があります。  
※オンライン練習会8月17日(水) 15:30~16:00  
(練習会申し込み締め切り: 8月15日(月))

### 第13回がん診療連携拠点病院共催市民講演会

知って安心 **がん治療と地域のサポート**  
~広島県のがん医療・福祉・行政~

**開催日** 令和4年 10月15日(土) **参加無料**  
**時間** 13:00~14:50 **先着400名**

**場所** 広島県民文化センター (広島市中区大手町1-5-3)

**講師** 医師、訪問看護師、介護支援専門員ほか

**申込方法** ①名前 ②住所 ③電話番号を明記の上、ハガキ、FAX、WEB又はEメールにて下記宛にお申込み下さい。参加証をお送りします。

※当日は参加証が必要です  
※11月3日~23日、WEBで見逃し配信

**ハガキ** 〒732-0052 広島市東区光町1-8-20  
**WEB** <https://gan-hiroshima.com/>  
**Eメール** [info@gan-hiroshima.com](mailto:info@gan-hiroshima.com)  
**FAX** 082-258-2546



**第13回市民講演会事務局** ※電話申込不可

スマホで簡単  
申し込み

肺がんに対する胸腔鏡下手術は、1992年に報告されて以来、急速に普及し、開胸手術と遜色ない安全性と長期成績が示されています。進行肺がんに対しても海外で胸腔鏡下手術の安全性、妥当性が検証されており、日本でも多くの施設で胸腔鏡下手術が普及しています。しかし現行の胸腔鏡下手術において、狭い胸腔内で操作する器械（長い手術鉗子や自動縫合器、超音波凝固切開装置など）の動きの制限や平面視（2D）による視界制限などから、肺血管、気管支の剥離・吻合操作とリンパ節郭清は難易度が高い手技であることは否めず、特に肺がん手術においては、腫瘍や胸腔内の状態によっては操作や切除が難しかったり、組織や創にダメージを加えてしまうリスクがあります。

ロボット支援下手術（RATS）は、①自然な3D画像下の拡大視効果、②手振れ防止機能、③多関節機能、④電気メス、超音波凝固切開装置や自動縫合器が先端に付いたアームの使用などにより、狭い胸腔内で精密に肺腫瘍やリンパ節を切除できることや、より低侵襲な手術により、入院期間のさらなる短縮が可能になることが報告されています。臨床試験においても安全性の確認が行われ、ダヴィンチ手術システムを用いたロボット支援下肺悪性腫瘍切除術は、2018年4月より保険適応となりました。

県立広島病院 呼吸器外科では、年間約120例の肺悪性腫瘍手術や、縦隔腫瘍手術を行っており、そのほとんどが胸腔鏡下手術です。これらの手術では、従来の開胸手術に比較して手術の体にと与える影響（疼痛や手術ダメージ）の少なさや合併症の減少などの点で、より良い手術が可能になっています。これらの経験より今回、ロボット支援下手術を開始するに至りました。以前紹介しました同じく低侵襲である単孔式胸腔鏡手術（uniportal VATS）とロボット手術を患者さんの病態によって使い分けることで、従来の胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術と比較して、よりダメージが少なくより治療精度（がんの治療効果）の高い手術をバランスよく提供できると考えています。



医師が覗き込むモニターには立体的な手術部位の拡大画像が鮮明に映し出されます。



手ぶれ補正により、安定した操作が可能です。

## 外科医の独り言...no.130

### — 老化あるある —

私は今年65歳になります。高齢者の定義については諸説ありますが、国連の世界保健機関（WHO）は65歳以上を高齢者と定義しています。日本でも高齢者というと、一般的には65歳以上とされることが多いのですが、法律によっては高齢者の定義が異なるようです。雇用安定に関する法律では、55歳以上を高齢者として定義していますが、医療に関する法律の中では、65歳以上74歳以下を前期高齢者、75歳以上を後期高齢者とするのが定着しています。まあ私も、いつまでも若いと思っていましたが、どうあがいても高齢者の仲間入りをしていることは間違いなさそうです。

老眼は40代前半から気になり始め、その頃から2.5倍拡大の医療用ルーペを着けて手術をしていました。着け始めのころは、大きく見えすぎて気分が悪くなり「見えなくてもいいものまで見えてしまう」などと文句を言いながら手術をしていましたが、いつの間にか馴染み、手術にはなくてはならない必須アイテムになっています。ちなみに、この医療用のルーペは、最近のテレビドラマでも着けているのをよく見かけますが、最低20万円はする高価なものです。

物忘れがひどい、人の名前が覚えられないなどの記憶力の低下については、以前もこのコラムで告白しました。脳の老化現象は着実に進行しているようです。なぜこんなことが思い出せないのかと自己嫌悪に陥ることが良くあります。ただ、その時には思い出せなかったけど、数分後にはパッと霧が晴れたように出てくることもよくあり、脳の記憶回路の渋滞が原因なのかもしれません。まだ訓練で回復する余地はありそうです。あと、どうしても思い出せなくてイライラするので、スマホで検索してやっと解決したかと安堵したのもつかの間、30分後にはまた同じことが思い出せなくてビックリすることがあります。仕方なくもう一度スマホで再検索す

るのですが、自分では受け入れができておらず、結構な屈辱感を味わうことがあります。今のところ認知能力には問題はないと自己診断しているのですが、自己診断ほど信用ならないものではありません。

最近気になるのが、人の話が聞こえにくくなっていることです。知らないうちにテレビのボリュームが上がっています。自分の声も大きくなっているようです。マスクのせいもあるかもしれませんが、特に男性の低い音が聞き取りにくくなっています。さらに目の前にアクリルの衝立があって、ぼそぼそとしゃべられると残念ながら聞き取れません。最近、中年期の難聴と認知症の関連が注目されています。難聴のためにコミュニケーションがうまくいなくなると、人との会話をつい避けるようになり、社会的に孤立してしまう危険があり、認知症の発症につながる可能性があるそうです。中年期に音の刺激や脳に伝えられる情報量が少ない状態が続くと、脳が萎縮し、神経細胞が弱り、それが認知症の発症に大きく影響することが明らかになったそうです。私に限って、聞き取りにくいからコミュニケーションを取りづらくなることはないと思っていますが、トンチンカンなコミュニケーションになる危険性は高く、これはこれで相手にとっては迷惑な話かもしれません。

どこかで聞いた話ですが、ヒトの保証期間は60年だそうです。確かに、私も60歳を過ぎた頃からちょこちょこ病気が見つかってきます。最近、老化防止のサプリの広告がやたらと気になり、老化を十分に受け入れできていないようです。これから出てくる病気に対しては、保証期間を過ぎているので仕方ないと受け入れて、継ぎはぎ修理に臨みたいと思っています。

院長／板本 敏行



## 脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長／上田 浩徳

### 冠動脈の石灰化結節性病変 (Calcified nodule; CN) の治療戦略 【循環器内科／岡 俊治】

急性冠症候群 (Acute Coronary Syndromes; ACS) の発症機序は ①冠動脈プラークの破綻 (Plaque rupture; 線維性皮膜が破綻し、壊死性コアが血管内腔に接して血栓が付着) ②冠動脈プラーク表層のびらん (Plaque erosion; 線維性皮膜の破綻はないが、血管内腔に接する表層にびらんが生じ、血栓が付着) ③石灰化結節性病変 (CN; 結節状石灰化が血管内腔に突出し、血栓が付着) がそれぞれ55~65%、30~35%、2~7%と報告されています。

近年、広く普及したカテーテル治療のなかでも、ACSIに対するカテーテル治療は生命予後の観点からも最も有効かつ効果的な治療法です。しかし、③のCNは壊死性コアの石灰化を端とし、断片化した石灰化病変が冠動脈内腔に突出した病変で、しかもヒンジモーションを受けやすい冠動脈の曲がった部位に生じやすいことから、通常のカテーテル治療に難渋する症例が多く存在します。そのため、CNが原因で発症したACS患者の予後は不良であると報告されています。また、CNが存在する高度石灰化を伴う安定狭

心症例に対するカテーテル治療も、冠動脈石灰化病変を削る治療を行い、第2世代以降の薬剤溶出性ステントを用いたとしても長期の成績 (ステント再狭窄やステント血栓症など) は不良と報告されています。

このように、CNに対するカテーテル治療は今なお、残された重要な課題です。従来から行われていますいくつかの冠動脈石灰化病変を削るデバイス (ロータブレードやダイヤモンドバック) を用いて、ステントを留置しない治療 (ステントレス) が有効であるとの報告がされています。当院はロータブレードやダイヤモンドバックのいずれのデバイスも使用可能な施設であり、冠動脈におけるCNの部位や大きさに応じて適切に使い分けることが可能です。当院では、CNの治療成績の改善を目指して、冠動脈石灰化病変を削る治療に加えてカッピングバルーン等のスコアリングバルーンを用いたステントレスの治療に積極的に取り組んでおります。



## セタコンサートを開催しました

令和4年7月7日(木)、中央棟1階ロビーでプロテウスアンサンブルを迎え、院内コンサートを開催しました。

モーツァルトの「アヴェ ヴェルコム コルプス」や「星に願いを」「見上げてごらん夜の星を」「七夕」など多数の演奏をしていただき、美しいオーケストラの音色が院内に響きました。



コンサートの様子



プロテウスアンサンブルの首様と記念撮影